

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile! (自らの力を高め、視野を広げるために何事にもチャレンジし、自分自身の可能性を引き出し、高め、自己変革をめざす、そして笑顔が絶えない) を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) 45分×7限授業を円滑に推進すると共に様々な学力向上の取組みを検討・実施する
  - ア ベル始めを徹底し全教員が45分を有効に使った授業を展開する
  - イ 教科会議を充実し、教科内で3年間を見通した指導内容や指導方法の見直しを図り教科力を高める。
  - ウ 朝学習について検討する。
- (2) 授業力向上プランを本格稼働する。
  - ア 「授業力向上プロジェクトチーム」が中心となり研究授業・研究発表等の校内研修を充実させる。
  - イ 生徒の学力の幅が広いことから、クラス編成の工夫と進学重点クラス等の設置について検討する
  - ウ ICTを活用した授業や生徒が課題について調べ・まとめ・発表するというプロセスを含んだ授業の割合を多くする。

\*学校教育自己診断(生徒)の「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的評価(H25年度52%)を3年後には75%に上昇させる

## 2 ルール・マナー遵守と規範意識の涵養

- (1) 安全で安心、且つ気持ちの良い学校生活を送るために、お互いが進んで挨拶を行うと共にルールやマナーを遵守できる生徒を育成する。そのために「厳しさと優しさ」を基本理念に全教職員が一致して生徒指導に取り組む。
  - ア あいさつ運動に教職員全員で取り組む。
  - イ 服装・頭髪等・装飾品等の指導強化に取り組む。
  - ウ 遅刻者数の減少に取り組む。
  - エ 授業規律について、全教職員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルールを徹底し、組織的・統一的な指導を行う。

\*懲戒件数及び懲戒者数(H24:22件36名→H25:13件16名56%減)H25年度の水準を上回らないようにすると共に10件以内をめざす。

\*遅刻者数(H25:15,000人 → H25:14000)を3年間で半減させる。

## 3 豊かな自己実現の支援

- (1) 部活動の活性化に取り組む。  
学校の教育活動における様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動加入者を増加させる。
- (2) 恒例行事とした新入生オリエンテーションキャンプを充実する。
- (3) キャリア教育の充実を図る。  
本校取組みの柱である「教えてっ!先輩」の内容の更なる工夫・充実に取り組む。
- (4) 進路指導の充実を図る。
  - ア 放課後や長期休業期間中の進学講習等を充実し進学指導の充実を図る。
  - イ 家庭の経済的事情により就職希望者が増えていることを踏まえ就職先の開拓とともに、就職者対象の学習指導・面接指導等の充実を図る。
- (5) 教育相談の充実を図ると共に平成25年度末に実施した居場所カフェ等のNPOと連携した取組みを試行する。

\*部活動加入率(H25年度47%)を3年間で65%に上昇させる

\*国公立及び関西の有名私立大学への合格者数を3年間で30%増加させる。3年生での進路希望調査における進路先の実現率80%をめざす。

\*学校教育自己診断(生徒)の進路指導に関する項目(16、17、18)の肯定的評価(H25:52%、65%、54%)を3年間で75%に上昇させる。

## 4 国際的な視野を持つ生徒の育成

- (1) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。
  - ア 総ての授業において、生徒が課題について調べ、まとめ、発表する機会を多くする。
  - イ 英語検定その他資格検定の広報を充実し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。
- (2) 海外の高等学校等との交流について検討・実施する。  
海外の高校等との定期的な交流の実施について渡航するだけでなくSkypeを利用した交流の方法や長期休業期間中の語学研修等について検討する。

\*「授業において生徒が自分で考えをまとめたり発表する機会がある」の肯定的評価を3年以内に70%とする。

## 5 人権や生命尊重の意識の涵養

- (1) 課題や悩み・障がいのある生徒への支援の充実を図る。
  - ア 教育相談委員会が効果的に機能するように担任、学年、部活動顧問及び家庭等との連携を密にし、生徒の支援に全教職員が一体となって取り組む。
  - イ 生徒の生命に関わる事象の発生を未然に防止するために常に生徒の心に寄り添い、「自分を大切に作る心、他者を思いやる心」を育てる教育活動に全教職員が一致して取り組む。
- (2) 生徒に対する人権教育を計画的系統的に実施する。

\*人権侵害事象や生命にかかわる事象の未然防止に努める。学校教育自己診断の関連項目(25~28)の肯定的評価を3年間で20Pアップさせる。

## 6 学校運営体制の強化・改善

- (1) 「将来構想委員会(MAP)」が発案し、運営委員会が中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。
- (2) 校内組織の改編を検討し、機能化・効率化を図る。  
生徒減や教員減を見据えた大幅な校内組織見直しを図るとともに更なる組織の機能化・効率化を図る。
- (3) 中堅・若手教員の育成と積極的登用を図り、校内人事を活性化する。
- (4) 広報活動と地域連携の充実
  - ア ホームページを更に充実し広報活動を活発にする。
  - イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。

\*45分×7限授業の実施を機に学校経営戦略を具体的に進めていく。学校教育自己診断の関連項目の肯定的回答を3年間で75%とする。

## 7 校内学習環境の改善と美化清掃の徹底

学習環境の改善を図ると共に校内清掃を徹底し気持ち良い学習環境の維持に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]

学校協議会からの意見

有効回答数【生徒802名・保護者370名・教職員56名】  
・保護者の回答者数が昨年度より101名減少している。

#### 【学校生活について】

「学校へ行くのが楽しい」と答えた生徒が63.7%であり、昨年度の73.3%から10Pダウンしている。一方、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」は78.9%であり、昨年度76.4%より2.5Pアップしている。今年度の結果では、生徒と保護者との間に15P以上の開きがあるのが特徴である。

「学校生活についての先生の指導には納得できる」では、肯定的回答が40.1%に対し否定的回答が46.0%と上回っており、「港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」では、肯定的回答が48.1%に対し否定的回答が37.2%となっている。一方、保護者の「学校の生徒指導の方針に共感できる」では、肯定的回答が66.8%であり、昨年度の58.2%を8.6P上回っており、否定的回答は22.7%と昨年度と同じとなっている。

規律指導については、昨年度末からのスカート丈の指導に加えて、今年度から化粧、アクセサリについての指導や遅刻指導を強化したことが、「学校へ行くのが楽しい」の生徒の肯定的評価を下げ「学校生活についての先生の指導には納得できる」の否定的回答が肯定的回答を上回った原因と考えられる。指導の強化にもかかわらず、「港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている」の否定的回答が37.2%もあり、また「先生は協力して生徒指導に当たっている」の否定的回答が29.3%あるのは、指導の不徹底さと困難さを物語っている。保護者の自由記述欄には、規律指導の徹底を望む声が多い一方、少数ではあるが、スカート丈や化粧を自由にして学校を楽しくすれば良いとの意見もあり、保護者の価値観の多様化もリスクの一つとなっている。駄目なものはダメを徹底し、生徒への理解を促しながら指導を徹底していくことが課題である。

肯定的回答が唯一70%を超えたのは、「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しく行えるように工夫されている」のみであり、自由度の高い内容についての肯定的回答は比較的高く、「自由と規律」についての生徒の理解の深化や行動変容を促していくことが非常に大きな課題である。

#### 【自己肯定感】

「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定的回答が40.9%であり昨年度の52.0%を10P以上下回る結果となった。特に1年生での肯定的回答が38.4%と他学年より低く、学区制の撤廃により地元生徒が減り校区外からの生徒が多くなったことも一因と考えられるが、全体的な数値が低いことから、学校の教育活動すべてを通じて、生徒に自分自身への肯定感を高める（自信を持たせる）ことや、学校への帰属意識を高めることへの様々な取り組みが必要である。

#### 【授業・学習指導等について】

「授業が分かりやすいか」では肯定的回答（46%）と否定的回答（44.6%）とが、ほぼ同数となっている。保護者では「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っているか」の肯定的回答が、37.8%であるのに対して否定的回答が50.5%と10P以上、高くなっている。一方、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」「生徒の学習意欲に応じて、指導の方法や内容について工夫している」の教職員の回答は、其々94.6%、89.3%と高く、生徒や保護者の回答と大きく乖離している。

本校生徒の学習意欲や基礎学力に大きな開きがあるという現状、少人数指導や補習、講習など教員の様々な取り組みに関わらず、全体的な生徒の評価が低いという大きな課題となっている。

授業アンケートでは、教科・科目の特性により生徒の評価に違いはあるものの少人数展開や、選択科目における満足度は高く、特に3年生の選択科目における少人数授業の満足度は82.5%～92.5%と顕著である。

開講科目数は、1年15科目、2年22科目、3年40科目であり、授業アンケートの評価項目延べ数は其々135、198、360であるが、その内、満足度の高い（3.5P以上82.5%以上）の項目は、1年1（0.7%）、2年16（8.1%）、3年63（17.5%）となっている。

今年度は、授業観察デイの導入、ICTの活用や言語活動を重視した授業等に取り組んだが、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」と答えた生徒は、昨年度の42.1%から今年度45.9%と僅か3.8Pの伸びに留まっている。

生徒の興味関心を引き出し「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善を重点目標として、次年度は主体的・協働的な学びを推進するための授業研究を更に積極的に行い実践を積み重ねることが必要である。授業形態として従来型の授業から脱却し、全ての教員が生徒の主体性を重視した活動や発表などを授業に取入れ、言語活動を重視した授業を実践していくことが課題である。

#### 【学校運営・その他】

「45分×7限授業になり、効率よく授業が展開できる。」では教員の33.9%が肯定的回答、53.6%が否定的回答となっている。無回答も多く、50分で慣れていた教員に、45分になり効率よく授業が展開できるかという問い方にも問題があると思われる。成果の表れるのは、まだ先の話でもり、45分授業の評価については、別途記述式によるアンケートを行うこととしている。

「学校運営に教職員の意見が反映されている。」では今年度、内規の見直しなど校内規定や申し合わせ事項などの大幅な変更を行った影響もあり、肯定的な回答は56.9%となっている。また、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」は55.8%と昨年度と同様であり、本校の組織的課題を象徴している。学校運営については広く意見の聴取に努めると共に、次年度からは、学年主任連絡会をコア会議と併せ開催することで特に学年間の連携を強めていきたい。

広報活動を充実するために今年度ホームページを11月末にリニューアルし更新回数を飛躍的に向上させた。アクセス件数は50%程度アップしたもの

#### ◎第1回（平成26年5月31日（土） 10:00～12:00）

##### 【朝学習について】

- ・秋田の学校で、30分の朝学習を教員、生徒が自主的に行っている。
- ・島根県の学校でも同様の取組みを行っている。朝の時間が大切である。どのような取組みができるか考えてほしい

##### 【授業改善について】

- ・メロディチャイムは大きな効果が出ているようであるが、45分授業×7限の成果が出るよう授業改善を進めてほしい。
- ・大人が授業を聞いていても眠たくならないような授業、①わかりやすい ②面白い授業を心掛けてもらいたい。
- ・授業観察デイを置いて教員間の授業見学を実施されているが、ただ見て終わるだけでなく議論し合える教師集団になってもらいたい。
- ・ベテランの教員にとってストレスのかかる時代になった。ベテラン同士が意見交換を行い、若手の教員を指導するような組織づくりをしてもらいたい。

##### 【生徒指導について】

- ・遅刻をする理由が何なのか？ 原因を追究して指導に活かして欲しい。このまま社会に出ると大変なことになるという自覚を育てることが大切。
- ・部活動加入を促進する取り組みとして部活動に特色を作ることが大切だと思う。

##### 【環境整備・その他】

- ・学校が随分きれいになった。教室、廊下、トイレなど学習環境の美化に引き続き努めてほしい。
- ・職員室など先生方も自ら整理整頓に努めて、花を植えたり飾ったりするような取り組みも是非実践してもらいたい。
- ・生徒たちに自己肯定感を高めるための取り組みを工夫・検討してもらいたい。
- ・この協議会をもっと多くの教員に見せるようにしてもらいたい。学校協議会が何をしているのか、姿勢を伝える努力をしてほしい

#### ◎第2回（平成26年11月29日（土） 10:00～12:00）

##### 【授業改善について】

- ・45分授業になったことによる効果はあるか。
- ・教員・生徒の授業改善はどのように行われているか。
- ・授業見学後の研究協議の時間を十分に確保することが大切。
- ・「授業アンケート」の結果をどのように改善に生かしていくかが課題だが、その一つとして他校種との連携・授業見学を実施してはどうか。
- ・授業の公開を更に範囲を広げ、評価の高い教員の授業を、多くの生徒・教員で見学してはどうか。
- ・普通科という特色をどう生かしていくか。例えば、漢字検定、英語検定等をはじめとした色々な資格取得に積極的に取り組めるよう工夫してはどうか。

##### 【生徒指導・その他】

- ・アルバイトは原則禁止ということだが、部活動とアルバイトの両立を可能にするような工夫をしてはどうか。
- ・HPは非常に明るいイメージで見やすくなった。大いに活用してもらいたい

#### ◎第3回（平成26年2月13日（金） 15:00～17:00）

##### 【学校教育自己診断・授業アンケート結果及び今年度学校評価を受け、来年度に向けた提言】

- ・「授業が分かりやすいか」について、生徒また保護者の肯定的回答が少ないのが気になる。本日、授業風景を見せて頂いたが、生徒が授業に集中しているクラスもあれば、よそ向いて喋っていたり、我々の方を気にしたりして授業に集中できていないクラスもあった。集中していたクラスでは、生徒全員が先生の方を見て熱心に取り組んでいた。少し見ただけでも指導力のある先生であるということが分かった。生徒には苦手な科目や嫌いな科目もあるし、その科目で先生の教え方が悪ければ、更にその科目が嫌いになったりする。先生が、生徒とのコミュニケーションやユーモアで、その科目が苦手でも好きにさせる、興味を持たせるようにしていくことが大切である。
- ・生徒に興味・関心を持たせるためには、先生自身の人間性を高めていくことが大切だと思う。先生の力量を高め魅力のある授業を展開してほしい。全ての先生方がそうなるようにお互いの授業見学や授業研究を更に積極的に進めてもらいたい。
- ・英語検定に加えて漢字検定も実施されたようだが、資格を取るということは、生徒の自信にも繋がってくると思う。少しでも多くの生徒が自信を持つことができるよう受検者の拡大や合格率の向上をめざすと共に他の資格取得などについても検討してはどうか。
- ・英語検定では、合格率が昨年より5.5Pアップしたということだが、英語科の先生方をはじめとする努力の結果だと思う。地道な取り組みを継続してもらいたい。
- ・中学校ではベテラン、若手に関係なく授業についてしっかりと議論する場がある。港高校では、ベテランと若手の交流機会をもっと増やしていく必要があるのではないかと。
- ・生徒の自由記述を見ると個々の教員の人間性や社会性にも課題を感じる。授業以外にも、一般企業では当たり前に行われている礼儀やマナーなどについて接遇研修のような研鑽も取り入れてみてはどうか。挨拶運動も全教職員が進んで参加し生徒に見本となることが大切だと思うし、保護者や地域から愛される、信頼される学校であってほしい。

<p>の「ホームページをよく閲覧する」と回答した保護者が20.8%と昨年度より5.5P低くなっている。これは、自己診断の実施がHPのリニューアル前であったことも影響していると思われるが、必要な配付物（紙での連絡）をできるだけ掲載する等、今後強力な連絡・広報ツールとして活用していきたい。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 45分×7限授業を円滑に推進すると共に様々な学力向上の取組を検討・実施する</p> <p>ア ベル始めを徹底し全教員が45分をフルに使った授業を展開する</p> <p>イ 教科会議を充実し、教科内で3年間を見通した指導内容や指導方法の見直しを図り教科力を高める。</p> <p>ウ 朝学習等の実施について検討する。</p> <p>(2) 授業力向上プランを本格稼働する。</p> <p>ア「授業力向上プロジェクトチーム」が中心となり研究授業・研究発表等の校内研修を充実させる。</p> <p>イ 生徒の学力の幅が広いことから、クラス編成の工夫と進学重点クラス等の設置について検討する</p> <p>ウ ICTを活用した授業や生徒が課題について調べ・まとめ・発表するというプロセスを含んだ授業の割合を多くする。</p> <p>(3) 英語検定の充実等</p>	<p>(1)</p> <p>ア メロディチャイムを導入し、生徒の教室への入室を促進し教員が授業開始ベルと同時に授業始めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・45分の効率的な授業展開について教員が相互に研修を行う。</li> <li>・100分授業(45分+10分+45分)実施の教科においては実験実習のためだけではなく生徒のプレゼンテーション能力を育成するための工夫を行う。</li> </ul> <p>イ 職員会議のない木曜日の7時間目相当時間を教科会議にあて教科指導力の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期毎に1回以上、教科内での研究授業・研究協議を実施する</li> </ul> <p>ウ 朝の授業開始前10分程度の時間を使った朝学習について検討する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 2学年単位で7時限目をカットする授業観察デ이를3日間設け、7限目の無い教員が他学年の授業観察を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究発表会を11月に開催する</li> </ul> <p>イ 実力テストや課題テスト、定期考査の成績を基に進学重点クラスの設置について検討する。</p> <p>ウ ICTを活用した授業実施の割合を30%増加させる。各教科会議において検討し、シラバスに組み入れ実施するように工夫・計画する</p> <p>(3) 英語検定の受験者の増加及び合格率の向上に取り組むと共に他の資格検定等について検討、試行する</p>	<p>(1)</p> <p>ア メロディチャイムの導入の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベル始めの実施率(80%)</li> </ul> <p>イ 教科会議の実施率(100%) 研究授業・研究協議の実施率(80%) 学校教育自己診断における関連項目の肯定的評価(80%以上)</p> <p>ウ 朝学習の検討及び試行実施</p> <p>*MAP及びカリキュラム検討委員会の開催数を月1回以上とする。(H25 6回)</p> <p>(2)</p> <p>ア 他の教員の授業見学回数を一人2回以上、教科内研究協議を学期に1回以上とする。(授業見学回数、研究協議回数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究発表会実施の有無</li> </ul> <p>イ MAP及びカリキュラム検討委員会での検討回数、進捗度</p> <p>ウ ICTを活用した授業実施の数 各教科、個人での取組みの数 学校教育自己診断における関連項目の肯定的評価割合(75%)</p> <p>(3) 英検受験者数、合格率(前年比5%up) 新企画実施の有無</p>	<p>(1)ア4月初年から2段階のメロディチャイムを導入、生徒・教員共に好評でありベル始めが定着した。100分授業は今年度3年生の選択体育で実施した。・・・◎</p> <p>イ教科会議の実施率は100%となったが、教科として3年間を見据えた指導内容・方法の再構築が課題。○</p> <p>研究授業については国・数・理・英・美・体で実施した。・・・○</p> <p>ウMAPで5回検討、朝の時間確保が困難なため、次年度から放課後学習として新しい取組みを実施することとした。・・・○</p> <p>(2)ア常勤の教員全員が研究授業も含めて他の教員の授業見学を最低2回以上実施し、それに関する研究協議を教科単位で実施できた。校内発表は11月17日に英語で実施、他教科・教科全体レベルの発表会に繋げていくことが課題。・・・○</p> <p>イ進学重点クラスを2年生で試行実施。新2年生で本格実施していく。新1年生でも踏襲していきたい。○</p> <p>ウ4名が新しく実施、全体で9名の教員(18%)が取り組む様になったが、環境整備が大きな課題である。生徒の肯定的評価は全体で45.9%であり、教科の取組みによる差が大きい。・・・○</p> <p>(3)英検合格率が昨年度比5.5%up、1月に漢字検定を新規実施した。・・・○</p>
2 ルール・マナー遵守と規範意識の涵養	<p>(1) 安全で安心、且つ気持ちの良い学校生活を送るために、お互いが進んで挨拶を行うと共にルールやマナーを遵守できる生徒を育成する。そのために「厳しさと優しさ」を基本理念に全教職員が一致して生徒指導に取り組む。</p> <p>ア あいさつ運動に教職員全員で取り組む。</p> <p>イ 服装・頭髪等・装飾品等の指導強化に取り組む。</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>エ 授業規律について、全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルールを徹底し、組織的・統一的な指導を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 全教職員が名札を着用するとともに、あいさつ運動に取り組む。(生徒が教わっていない教職員についても進んで挨拶し同様の態度がとれるようにする)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に2回以上の強化週間を設ける</li> </ul> <p>イ 平成25年度に導入した女子生徒のスカート基準と同様に、化粧や装飾品についても預かり指導や再登校指導を徹底して行い、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。</p> <p>ウ 登校時間、授業開始時間が5分早くなることに合わせ、時間厳守の大切さを全生徒・保護者に徹底するとともに、遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>平成25年度に導入した校長訓告の基準を更に厳しくしていく。(15日→10日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回、朝の生徒朝礼(全校集会)を実施する。</li> </ul> <p>エ 授業力向上委員会を中心に授業ポリシーを定め文書化し、教室に掲示するとともに全教職員が共通した取組みを実施する。(1学期当初)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 名札の着用率(95%) 強化週間実施中の教職員の参加率(80%)</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)の生徒指導に関する項目における肯定的評価 * H25年度68.6%を80%に。 制服、頭髪、化粧等で特別指導を受ける生徒数を20%程度減少させる。</p> <p>ウ 遅刻者数(H25年度14,000人)を25%減少させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードルが高くなるが校長訓告回数(H25年度3回)を上回らないようにする。</li> <li>・生徒朝礼の開催回数</li> </ul> <p>エ 授業ポリシーに則った授業の取組みの定着率 *90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(教職員)の該当項目の肯定的評価を20%向上させる。</li> </ul>	<p>(1)ア行事等での着用率は100%、普段の着用率は65%程度、強化週間中の参加率85%となった。・・・○</p> <p>イ質問内容変更のため単純比較できないが「規則やルールを守っている」との肯定的回答が48.1%、「教員が協力して生徒指導に当たっている」の肯定的回答は49.1%となった。規則を厳しくした結果であるが、引き続き生徒への理解を促しながら徹底していく必要がある。・・・△</p> <p>・特別指導を受けた生徒数は50%減の59名となった。・・・◎</p> <p>ウ遅刻の校長訓告数は基準を厳しく設定したため昨年度より4件上回る7件となったが、遅刻は、当初目標を15P上回る40%減となった。家庭状況等困難な課題はあるがさらに削減をめざしたい。・・・◎</p> <p>授業に支障が出るため、朝礼でなく全校集会を4回実施した。・・・○</p> <p>エメロディチャイムの導入により「ベルの始めが授業の開始」ベル始めが徹底した。・・・◎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・69.6%から74.0%と4.4P向上、80%をめざしたい。・・・○</li> </ul>

<p>3 豊かな自己実現の支援</p>	<p>(1) 部活動の活性化に取り組む。 学校の教育活動における様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動加入者を増加させる。 (2) 恒例事業とした新入生オリエンテーションキャンプを充実する。 (3) キャリア教育の充実を図る。 (4) 進路指導の充実を図る。 ア 放課後や長期休業期間中の進学講習等を充実し進学指導の充実を図る。また、朝学習等について検討する。 イ 家庭の経済的事情により就職希望者が増えていることを踏まえ就職先の開拓とともに、就職者対象の学習指導・面接指導等の充実を図る。  (5) 教育相談の充実</p>	<p>(1) ア 新1年生を対象に部活動体験期間を設定し、加入率を高める工夫をする イ 中学生対象の部活動体験入部を継続発展させると共に招待練習・試合「港高校カップ」等を企画検討する。  (2) プログラムを精選、ほぼ固定化し継続実施が円滑に進むように今年度中に27年度の実施を決定して準備に取り組む。 ・新入生に対して入学理由等のリサーチを行うと共に、教育的効果の測定結果を蓄積し行事内容の改善を図る。 (3) ア 本校取組みの柱である「教えてっ！先輩」が今年度10回目となるのを機に、より幅広い分野について学ぶことができるよう、内容、方法、講師選定を見直す。 イ 職業体験（保育・福祉・看護）等を充実させる (4) ア 進学希望の生徒に対して「受験指導の充実」を明確に打ち出し、講習を実施する。 ・進学重点クラスの設置を検討する。 イ 就職先の開拓と共に、集中的にきめ細かい指導を行い全員合格をめざす。 ・就職者向けの講習講座の実施、面接指導の徹底（合格域に達するまで何度も行う） (5) 教育相談を更に充実すると共に H25 末に実施した居場所カフェ等の NPO と連携した取組みを試行する。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率（H25 年度 47.5%）を5ポイント増加。3年間で65%以上を達成する イ 部活動体験参加人数 *H25:191人を10%増加させる。 ・招待試合等の企画・実施の有無、開催数 (2) 実施後のアンケートにおける肯定的回答 *H25:97.5%を維持する。 (3) ア 終了後のアンケートにおける肯定的回答 *H25:94%を維持する。 イ 学年レベルでの取組みとなったか *参加者数 H25 比 10%UP (4) ア 講習開催における参加者数（H25:9講座 174人）20%UP。 ・MAP及びカリキュラム検討委員会での検討回数、進捗度 イ 就職先開拓数30%増 *希望者の合格率を100%に近づける (5) カフェ開催の有無、開催回数、利用生徒数及び連携事業数</p>	<p>(1) ア 体験期間終了後の定着が見られなかったが、1年生の加入率が向上し52.5%と昨年度より5PUPした。○ イ 生徒数の減少もあつて昨年度を下回る183名となったが、1,2年生の参加が増えたことから今後の在り方を検討する必要がある。総合的な大会は企画実施できなかったが、バスケット、野球、バドミントン部において招待試合や合同練習を実施した △ (2) 肯定的評価は昨年度と同様97.5%となった。内容を充実させ引き続き実施していく。○ (3) ア 卒業後5年以内の先輩を講師として多く起用、職種による班分けの工夫などを行い、満足度98%の高評価を得た。○ イ 保育体験希望者が多く19人増の105%UPとなった。また、早期からの目標設定を促すため大学コンソーシアムへの参加や、1年生全員が大学・専門学校へ出向き説明や授業等を体験する見学会を実施した。○ (4) ア 2,3年生併せて12講座述べ270名、35%増となった。○ ・進学重点クラスは2年生において試行実施した。新2年生で本格実施し継続性を持たせたい。○ イ 就職希望者が昨年度より20名減少例年並みの12名となったため、過去実績のある14社を訪問、面接指導を徹底し希望者全員の進路が決定した (5) カフェは事業削減のため本校で実施することができなかったが、教育相談は支援生徒を含めて生徒41名（延べ135回）保護者5名（延べ8回）実施。保健福祉センターを始め9つの外部機関と連携しながら支援にあたった。○</p>
<p>6 学校運営体制の強化・改善</p>	<p>(1) 「将来構想委員会（MAP）」が発案し、運営委員会が中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。  (2) 校内組織の改編を検討し、機能化・効率化を図る。  (3) 中堅・若手教員の育成と積極的登用を図り、校内人事を活性化する。  (4) 広報活動と地域連携の充実 ア ホームページを更に充実し広報活動を活発にする。 イ 地域連携を推進し地域から愛される学校をめざす。</p>	<p>(1) MAPの活動を活性化し、更に積極的に発案、運営委員会が中心となって学校の将来ビジョン（学校経営戦略プラン）づくりをより積極的に推進する。  (2) 生徒減や教員減を見据えた大幅な校内組織見直しを図るとともに更なる組織の機能化・効率化を図る。 ア 9月までに校内内規の整理と見直しを行う。 イ 昨年度制定した人事方針を明確にし、人事委員会との調整をより円滑に実施する。 ウ 分掌の再編整備を実施する。  (3) OJTにより若手・中堅の育成を実施すると共に若手教員を対象とした研修会を月に1回実施する。 (4) ア 更新頻度はH25年度水準を維持すると共に学校生活、部活動の更新回数をすべての部が月に1回以上となるように、部顧問向けのHP講習会を実施する。 ・生徒、保護者の閲覧者を50%増加させる ・1ヶ月のアクセス数（3000）を20%増加させる イ 校外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会及び市岡高校並びに地元中学校との連携企画行事を実施する。</p>	<p>(1) MAPの開催回数、新規企画提案数 新規企画の達成率 学校協議会での意見 (2) ア 校内内規の整理・達成度 イ 学校教育自己診断における肯定的回答割合（75%） ウ MAP及び運営委員会での検討回数、進捗度 (3) 研修会の実施回数。学校教育自己診断（教職員）における関係項目の肯定的評価 *H25:41.8%を75%に。 (4) ア 更新頻度 ・講習会の実施回数・参加部顧問数 ・アクセス数 ・学校協議会での意見 イ 美化活動：学期2回を下回らない ・関係機関等との連携事業数 ・学校協議会での意見</p>	<p>(1) 6回、学力重点クラスの試行、キャリア教育関係計画(案)、学校行事等の検討、分掌改編等。○ (2) ア 7月1日付けで職員に提示。○ イ 人事調整会議に改編、肯定的回答は56.9%は致し方ないところ。○ ウ MAPを5回開催、次年度案を完成した。更に組織の改革をめざす。○ (3) 10回 当初の目標を達成75.9% 次年度も引き続き実施していく。○ (4) ア HPをCMSにてリニューアル、11月末に公開した。更新回数は飛躍的に向上、1日当たりのアクセス数が50%向上した。今後強力な連絡・広報ツールとして活用していく。○ イ 美化運動は計画通り実施、加えて挨拶運動にPTAと連携し弁天町駅から学校までの美化活動を実施、港区のひまわりプロジェクトに協力、JR弁天町駅ガード下北壁にひまわりの壁画を作成した。○</p>